

2024年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年3月13日

上場会社名 ラクスル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4384 URL <https://corp.raksul.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 永見 世央
 問合せ先責任者 (役職名) 上級執行役員CAO (氏名) 西田 真之介 TEL 03(6629)4893
 四半期報告書提出予定日 2024年3月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第2四半期の連結業績（2023年8月1日～2024年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		売上総利益		営業利益		non-GAAP EBITDA ※1	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第2四半期	23,990	23.0	7,911	34.5	1,291	35.7	2,177	33.1
2023年7月期第2四半期	19,510	—	5,880	—	951	—	1,636	—

(注) 包括利益 2024年7月期第2四半期 1,730百万円 (31.3%) 2023年7月期第2四半期 1,317百万円 (—)

	経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益		1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2024年7月期第2四半期	1,069	35.0	1,779	34.1	30.47	28.95
2023年7月期第2四半期	791	—	1,326	—	22.83	21.57

	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	%	%	%
2024年7月期第2四半期	13.2	3.3	5.4
2023年7月期第2四半期	14.8	2.8	4.9

(参考) 持分法投資損益 2024年7月期第2四半期 △187百万円 2023年7月期第2四半期 △111百万円
 2022年7月期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、2023年7月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。

※1. non-GAAP EBITDAは、財務会計上の数値（GAAP、日本基準）から非経常項目やその他の調整項目を一定のルールに基づいて控除もしくは調整したものであり、当社の恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しております。具体的には、株式報酬費用、減価償却費及びのれん償却額を中心に、当社が控除すべきと判断する一過性の利益や損失などを控除もしくは調整しております。

2. 当社は、2023年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年7月期第2四半期	36,702	15,800	39.2	246.13
2023年7月期	32,665	13,909	38.5	215.89

(参考) 自己資本 2024年7月期第2四半期 14,395百万円 2023年7月期 12,567百万円

※当社は、2023年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年7月期	—	0.00	—	—	—
2024年7月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年7月期の連結業績予想（2023年8月1日～2024年7月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		売上総利益		営業利益		non-GAAP EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	50,700	23.6	17,000	38.3	2,300	30.3	4,300	36.7

	経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	1,900	62.5	2,100	58.0

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 連結業績予想の修正については、2024年3月13日付で公表いたしました「2024年7月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年7月期2Q	58,756,910株	2023年7月期	58,476,092株
② 期末自己株式数	2024年7月期2Q	269,011株	2023年7月期	264,312株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年7月期2Q	58,396,610株	2023年7月期2Q	58,119,752株

（注）当社は、2023年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2024年3月13日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

わが国の経済は、景気に緩やかな回復の動きが見られました。しかしながら、ウクライナおよび中東地域をめぐる情勢や円安等の影響による物価上昇に加え、金融資本市場の変動など先行きに対する不透明感が高まりました。印刷業界においては、デジタルメディアの拡大とともに従来型の紙媒体の需要が減少傾向にあります。その一方で、印刷EC業界はまだ潜在需要が大きく、年々成長しており、2022年の市場規模は1,340億円程度まで拡大したと想定されております(株式会社矢野経済研究所「国内印刷通販市場に関する調査」2023年2月より)。国内での広告市場も年々拡大しており、2022年のインターネット広告以外の広告市場は国内全体で約4.0兆円、なかでも当社グループの現在の事業領域(テレビCM、交通広告、ダイレクトメール及び新聞折込)における市場規模は約2.5兆円となっております(電通「日本の広告費 2022年」に基づく当社試算によります)。特にテレビCMについては、わが国でもっともリーチコストが安く多くの人々に情報を届けられる媒体であることから、より多くの企業がマーケティング手法として活用できる余地が残されています。当社グループは、テレビCMの小ロットかつ低価格での販売、ITを用いた効果分析といった独自の価値提供を通じ事業展開を図っております。

このような状況の中、当社グループは、「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」というビジョンの基、主に印刷・集客支援の統合バーティカルプラットフォーム「ラクスル」、テレビCM・動画広告の統合バーティカルプラットフォーム「ノバセル」を運営してまいりました。

当期からは代表取締役の変更もあり、ラクスルグループにとっての第二次創業期に入りました。複数事業を運営・最適化しながら、内製の事業立ち上げだけではなく、連続的なM&Aによる拡張を通して事業のさらなる成長へとつなげてまいります。当第2四半期連結累計期間においては、株式会社ラクスルファクトリーの株式取得、株式会社ダンボールワンとの合併、株式会社AmidAホールディングスへの公開買付の実施・完了など新たなグループ作りへの積極的な動きをしております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は23,990百万円(前年同期比23.0%増)、営業利益は1,291百万円(前年同期比35.7%増)、経常利益は1,069百万円(前年同期比35.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,779百万円(前年同期比34.1%増)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(ラクスルセグメント)

「ラクスル」においては、株式会社ダンボールワンとの合併を行い、会社が一つになることで事業の効率化をより一層進めております。また、エンタープライズ事業やノベルティ事業を中心とした既存事業の拡大のほか、公開買付により連結子会社化した株式会社AmidAホールディングスもラクスルグループに加わり、当第2四半期連結会計期間から業績拡大に貢献しております。この結果、売上高は22,117百万円(前年同期比23.9%増)、セグメント利益は2,477百万円(前年同期比36.2%増)となりました。

(ノバセルセグメント)

「ノバセル」においては、制作の売上が振るわなかった一方で、高速調査サービス「ノビシロ」を始めとするSaaS事業は順調な拡大を続けており、新たに「定性インタビュー調査」サービスを開始するなど、今後もテクノロジーによってより便利なサービス・機能を提供し、誰もがマーケティングを使いこなし、世の中の素晴らしいサービスが正しく成長できる世界「マーケティングの民主化」の実現に向けて貢献してまいります。

この結果、売上高は1,071百万円(前年同期比20.4%減)、セグメント損失は73百万円(前年同期はセグメント利益39百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は19,584百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,004百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が2,108百万円減少した一方、未収入金が318百万円、売掛金が256百万円、原材料が244百万円、前渡金が97百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は17,117百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,041百万円増加いたしました。これは主にのれんが2,587百万円、投資有価証券が2,071百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は9,103百万円となり、前連結会計年度末に比べ810百万円増加いたしました。これは主に預り金が533百万円、契約負債が203百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は11,797百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,334百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が1,113百万円、繰延税金負債が217百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は15,800百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,891百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益1,779百万円を計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて2,108百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には12,536百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は766百万円（前年同期は1,542百万円の獲得）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益を2,612百万円計上した一方、法人税等の支払額を710百万円計上し、仕入債務が331百万円、未払金及び未払費用が268百万円減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は5,009百万円（前年同期は468百万円の獲得）となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出3,416百万円と投資有価証券の取得による支出2,077百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果得られた資金は1,210百万円（前年同期は1,094百万円の使用）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出829百万円のうち、長期借入れによる収入2,000百万円によるものであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,644	12,536
受取手形及び売掛金	4,718	4,954
商品及び製品	282	360
原材料及び貯蔵品	13	321
前払費用	549	605
その他	380	806
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	20,589	19,584
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	223	557
減価償却累計額	△113	△222
建物及び構築物 (純額)	110	335
機械装置及び運搬具	754	1,604
減価償却累計額	△599	△1,074
機械装置及び運搬具 (純額)	155	529
土地	—	113
その他	95	173
減価償却累計額	△66	△129
その他 (純額)	29	44
有形固定資産合計	294	1,022
無形固定資産		
のれん	4,212	6,799
ソフトウェア	320	521
ソフトウェア仮勘定	83	64
その他	8	5
無形固定資産合計	4,625	7,391
投資その他の資産		
投資有価証券	5,025	7,097
関係会社株式	1,452	677
長期前払費用	56	8
繰延税金資産	194	256
その他	427	662
投資その他の資産合計	7,156	8,703
固定資産合計	12,076	17,117
資産合計	32,665	36,702

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,299	3,377
未払金及び未払費用	1,035	1,208
短期借入金	800	800
1年内返済予定の長期借入金	1,647	1,787
未払法人税等	754	469
未払消費税等	294	282
契約負債	160	363
賞与引当金	200	184
その他	100	630
流動負債合計	8,292	9,103
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	5,013	5,008
長期借入金	4,451	5,564
資産除去債務	105	114
繰延税金負債	892	1,109
固定負債合計	10,463	11,797
負債合計	18,756	20,901
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,742	2,768
新株式申込証拠金	—	0
資本剰余金	5,549	5,576
利益剰余金	1,540	3,319
自己株式	△300	△300
株主資本合計	9,531	11,363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,036	3,031
その他の包括利益累計額合計	3,036	3,031
株式引受権	—	61
新株予約権	1,341	1,310
非支配株主持分	—	32
純資産合計	13,909	15,800
負債純資産合計	32,665	36,702

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
売上高	19,510	23,990
売上原価	13,630	16,079
売上総利益	5,880	7,911
販売費及び一般管理費	4,928	6,620
営業利益	951	1,291
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	1	1
その他	5	18
営業外収益合計	12	26
営業外費用		
支払利息	28	23
株式報酬費用消滅損	21	7
持分法による投資損失	111	187
その他	10	29
営業外費用合計	171	248
経常利益	791	1,069
特別利益		
関係会社株式売却益	1,588	1,407
新株予約権戻入益	—	132
持分変動利益	69	—
その他	7	2
特別利益合計	1,665	1,542
特別損失		
投資有価証券評価損	99	—
固定資産除却損	1	—
その他	3	—
特別損失合計	104	—
税金等調整前四半期純利益	2,352	2,612
法人税、住民税及び事業税	717	439
法人税等調整額	307	437
法人税等合計	1,025	876
四半期純利益	1,326	1,735
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△43
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,326	1,779

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
四半期純利益	1,326	1,735
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	△4
その他の包括利益合計	△9	△4
四半期包括利益	1,317	1,730
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,317	1,774
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△43

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,352	2,612
減価償却費	114	255
のれん償却額	247	365
株式報酬費用	322	265
新株予約権戻入益	—	△132
有価証券評価損益(△は益)	99	—
関係会社株式売却損益(△は益)	△1,588	△1,407
持分変動損益(△は益)	△69	—
持分法による投資損益(△は益)	111	187
受取利息及び受取配当金	△7	△13
支払利息	28	23
賞与引当金の増減額(△は減少)	18	△21
売上債権の増減額(△は増加)	206	262
棚卸資産の増減額(△は増加)	△42	△24
仕入債務の増減額(△は減少)	56	△343
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△163	△268
未払消費税等の増減額(△は減少)	△10	△35
その他	117	△232
小計	1,796	1,492
利息及び配当金の受取額	2	8
利息の支払額	△29	△23
法人税等の支払額	△227	△710
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,542	766
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1	△278
有形固定資産の売却による収入	—	2
無形固定資産の取得による支出	△57	△75
短期貸付けによる支出	△156	△117
短期貸付金の回収による収入	59	113
敷金の差入による支出	△15	△153
敷金の回収による収入	—	5
投資有価証券の取得による支出	△46	△2,077
関係会社株式の取得による支出	—	△33
関係会社株式の売却による収入	—	1,000
子会社の清算による収入	—	20
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△3,416
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	685	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	468	△5,009
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	2,000
長期借入金の返済による支出	△854	△829
新株予約権の発行による収入	29	0
新株予約権の行使による株式の発行による収入	30	40
自己株式の取得による支出	△299	△0
非支配株主への配当金の支払額	—	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,094	1,210
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	916	△3,033
現金及び現金同等物の期首残高	13,682	14,644
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	925
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,598	12,536

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社ダンボールワンは、当社を吸収合併継続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

また、以下の会社は株式取得等により子会社となったため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

株式会社AmidAホールディングス

株式会社ラクスルファクトリー

株式会社ペライチ

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ラクスル	ノバセル	計				
印刷・ソリューション領域	8,598	—	8,598	—	8,598	—	8,598
ビジネスサプライ周辺領域	5,705	—	5,705	—	5,705	—	5,705
梱包材領域	3,551	—	3,551	—	3,551	—	3,551
その他の領域	—	1,345	1,345	309	1,654	—	1,654
顧客との契約から生じる収益	17,855	1,345	19,200	309	19,510	—	19,510
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
売上高							
外部顧客への売上高	17,855	1,345	19,200	309	19,510	—	19,510
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	1	3	16	19	△19	—
計	17,857	1,347	19,204	325	19,530	△19	19,510
セグメント利益又はセグメント損失(△)	1,818	39	1,857	87	1,945	△993	951

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△993百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△993百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年8月1日 至 2024年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ラクスル	ノバセル	計				
印刷・ソリューション領域	9,759	—	9,759	—	9,759	—	9,759
ビジネスサプライ周辺領域	8,202	—	8,202	—	8,202	—	8,202
梱包材領域	4,155	—	4,155	—	4,155	—	4,155
その他の領域	—	1,071	1,071	802	1,873	—	1,873
顧客との契約から生じる収益	22,117	1,071	23,188	802	23,990	—	23,990
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
売上高							
外部顧客への売上高	22,117	1,071	23,188	802	23,990	—	23,990
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	1	2	6	9	△9	—
計	22,118	1,073	23,191	808	23,999	△9	23,990
セグメント利益又はセグメント損失(△)	2,477	△73	2,404	△42	2,361	△1,070	1,291

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,070百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,070百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 株式会社AmidAホールディングスの連結子会社化に伴い、当社グループの主力事業であるラクスルセグメントにおける収益の状況を把握するうえで、事業領域毎に収益を分解し情報開示することが適切であると判断いたしましたので、当第2四半期連結累計期間より、下記領域毎に区分しております。

なお、前第2四半期連結累計期間につきましては、変更後の区分に組み替えて表示しております。

印刷・ソリューション領域：事業活動に使う紙への印刷物、大企業向け印刷ソリューション

ビジネスサプライ周辺領域：オフィスや店舗で使われるモノに関する印刷物

梱包材領域：段ボールや紙袋などのパッケージング

その他の領域：上記以外のほか、テレビCM・動画広告の統合パーティカルプラットフォーム「ノバセル」、システム構築支援事業等

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ラクスルセグメント」において、株式会社AmidAホールディングス及び株式会社ラクスルファクトリーを連結の範囲に含めたことによるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において2,199百万円であります。

「その他セグメント」において、株式会社ペライチを連結の範囲に含めたことによるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において635百万円であります。

なお、のれんの金額のうち、取得原価の配分が完了していないものにつきましては、暫定的に算定された金額であります。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2024年3月13日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、下記のとおり自己株式の取得に係る事項を決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元と資本効率の向上を図ることを目的としております。

2. 取得に係る事項の内容

(1) 取得対象株式の種類

当社普通株式

(2) 取得しうる株式の総数

700,000株 (上限)

(発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合1.20%)

(3) 株式の取得価額の総額

7億円 (上限)

(4) 取得期間

2024年3月14日～2024年4月30日

(5) 取得方法

東京証券取引所における市場買付

(多額の資金の借入)

当社は2024年1月23日開催の取締役会において、資金の借入について決議を行い、その決議に基づき当第2四半期連結会計期間の末日以降において、以下のとおり借入を実行いたしました。

- (1) 資金用途 : M&A買収資金、設備投資を中心とした今後の事業拡大に向けた成長投資への充当
- (2) 借入先 : 国内金融機関 2行
- (3) 借入金額 : 1,250百万円
- (4) 借入利率 : 基準金利+スプレッド
- (5) 借入実行日 : 2024年2月29日
- (6) 借入期間 : 4年~5年
- (7) 担保の有無 : 無担保、無保証

当社は2024年2月22日開催の取締役会において、資金の借入について決議を行い、その決議に基づき当第2四半期連結会計期間の末日以降において、以下のとおり借入を実行いたしました。

- (1) 資金用途 : 運転資金
- (2) 借入先 : 国内金融機関 1行
- (3) 借入金額 : 1,500百万円
- (4) 借入利率 : 基準金利+スプレッド
- (5) 借入実行日 : 2024年2月29日
- (6) 借入期間 : 1年
- (7) 担保の有無 : 無担保、無保証

(社債の発行)

当社は2024年1月23日開催の取締役会において、無担保社債（私募債）の発行について決議を行い、以下のとおり無担保社債を発行いたしました。

1. 資金の使途

運転資金及び今後の事業拡大に向けた成長投資への充当

2. 私募債発行の概要

(1) ラクスル株式会社第1回無担保社債（適格機関投資家限定）

- ① 発行総額 : 200百万円
- ② 発行価額 : 社債の金額100円につき金100円
- ③ 利率 : 固定金利、変動金利
- ④ 発行日 : 2024年2月26日
- ⑤ 償還期限 : 2028年2月25日
- ⑥ 償還方法 : 期日一括償還
- ⑦ 財務代理人: 株式会社りそな銀行
- ⑧ 財務引受人: 株式会社りそな銀行
- ⑨ 振替機関 : 株式会社証券保管振替機構

(2) ラクスル株式会社第2回無担保社債（適格機関投資家限定）

- ① 発行総額 : 2,250百万円
- ② 発行価額 : 社債の金額100円につき金100円
- ③ 利率 : 固定金利
- ④ 発行日 : 2024年3月15日（予定）
- ⑤ 償還期限 : 2029年3月14日（予定）
- ⑥ 償還方法 : 6か月毎の定時償還
- ⑦ 財務代理人: 株式会社三菱UFJ銀行
- ⑧ 財務引受人: 株式会社三菱UFJ銀行
- ⑨ 振替機関 : 株式会社証券保管振替機構